

防災ラジオドラマ

グループ 「みやぎ・福祉・防災情報化機構」

タイトル 「被災地では誰でも何かが出来る」

【シーン①被災地へ向かう車中】

ナレーション 「2011年4月30日、早朝4時ころ、高速道路を走って西日本から宮城県へ
と向かう車中でエフさんはひとり呟く。」

エフさん 「急に総務部に異動になって、とたんに大災害が起こるなんて。あーあ、災害なんて関係ないと思ってたのに。まさか会社からボランティア休暇の命令が出るとは。まあ情報ボランティアというからには力仕事ではなさそうだし、IT関係は得意だから一週間だけ我慢してちやつちやと帰ろうつと。」

ナレ 「車は夜明けの高速道路をエム町に向けてひた走る。」

【シーン②災害ボランティアセンター】

ナレ 「発災から一カ月後の災害ボランティアセンターは未だに大混乱だった。朝早くからボラ
ンティアが派遣調整を行っている。」

エフさん 「あのう、すみません。俺は何をやったら良いでしょうか？」

センター長 「こっちはマッチングで手一杯だから、とりあえず奥のパソコンでホームページの
更新をお願い。詳細はブログ担当から聞いて！」

ナレ 「センター長は朝のミーティングへと走り去った。」

エフさん 「えー。とりあえずって、何やったらいいんだろう。」

ナレ 「エフさんは、とにかくパソコンの周りに集まってきている作業報告書を見ながら、ボラ

ンティアの活動を記事にすることにした。」

エフさん「このホームページ、誰か見てるのかな。そういや、出発前に自分でも見ていないや。と言うかボランティアセンターのホームページがあるなんて知らなかったよ。

【シーン③数日後】

エフさん「ああ、毎日毎日ボランティアリーダーの人たちは大活躍なのに、なんか俺だけ人の活動記録をちまちまと入力してるだけだなあ。なんか役に立ってるとは思えない。

はあ。」

ナレ「夕方になり、活動から帰ってきたボランティアの数人がエフさんの下に近づいてきた。」

ボランティア1「おっ。あんたがブログ書いてたのか。俺、このブログを見て九州からはるばる車運転して来たんよ。」

ボランティア2「そうそう、ここでつぶやいてる必要物資とかもかき集めてさあ。」

ボランティア3「直接現地の人から情報が出るから内容が信頼できるよね。おっと長靴の泥を洗ってこないと。」

ナレ「九州から来たと言うボランティアたちは外の洗い場へと向かっていった。」

エフさん「へ、へえ。なんか俺がやってることって役に立ってるかも。」

【シーン④町に取材に出る】

ナレ「ホームページの更新にも慣れてきて時間に余裕のできたエフさんは、町にくりだして被災した状況を自ら取材し、記事にすることにした。津波は広大な範囲に甚大な被害を与えていた。」

エフさん「町中が泥だらけになっている。家財道具もほとんどがダメだな。酷い。これはいつたいどのくらいの人数と時間が必要なんだろう。もっと本当の現状を伝えて、もっ

ともっと多くの人に来てもらわないと。

ボランティアが活動している姿や、町の状況を記録していると、地元の住民には見えない格好をした数人が、エフさんに近づいてきた。」

ラジオスタッフ「あもう、そこで何をしているんですか。」

エフさん「すみません、ボランティアセンターのホームページに書く記事を作り、ちょっと町の様子を見ていただけです。」

ラジオスタッフ「あ、君がボランティアセンターの記事を書いているのか。僕たちはエム町コミュニティエフエムのスタッフで、今はラジオの生放送をしてるんだけど、センターでの活動についてちよつと話してくれないかな。」

エフさん「ええつ。俺なんて何もしてないですよ。」

ラジオスタッフ「え、そう？活動しているボランティアから、ここのボランティアセンターのブログが詳しくて良いんだって聞いてるけど。」

ナレ「地元ラジオ局によるエフさんへの取材の様子は生放送で流れた。エフさんは少しずつ、今の活動にやりがいを感じ始めていた。」

【シーン⑤それぞれの仕事】

エフさん「あ、部長ですか？夜分遅くに電話してすみません。あもう、ボランティア休暇をもう少し延長したいんですが、可能でしょうか？あ、え？ホントですか。次の希望者がいないのでこのまま活動しろと。わかりました。是非お願いします。」

ボランティアセンターに取材班が到着した。

センター長「エフさん。テレビさんが来たよ。ばんばん被災地の情報を話して全国に広めよう

「よ。」

エフさん「ええ。まさか、地元のラジオで話したことを全国ニュースが聞きつけて取材に来るなんて・・・。」

テレビスタッフ「はい。収録します。」

テレビリポーター「はい。今日はこの町の災害ボランティアセンターで活動されているエフさんのお話をうかがいます。ええっと、情報発信の担当者だそうですが、全国のみなさんに向けて伝えたいことは何でしょうか？」

エフさん「あ、どうも。エフです。自分は会社からの命令で被災地に入りました。体力もないし、最初は何も出来ないと思っていましたが、センターの活動ブログを担当することになり、被災地の今を伝えることがとても重要だとわかりました。力仕事の「泥かき」や「ガレキ撤去」と同じように、この情報発信も重要な被災地支援なんです。これから被災地で活動したいと考えている方に伝えたいのですが、被災地では出来ることがたくさんあります。自分の得意とする分野で力を発揮してください。」

ナレ「エム町に来る前は、ボランティア活動を面倒だと思っていたエフさんは、今は全国に向けてボランティア参加を呼びかける人になっていた。」